

慶應義塾大学ビジネス・スクール

刈谷豊田総合病院における リスクマネジメント*

5

はじめに

医療におけるリスクの問題を扱った『人は誰でも間違える』（L. コーン/J. コリガン/
M. ドナルドソン編、日本評論社）で主張されていることは、「人間は誰でも間違える。し
かし、間違いを防ぐことはできる。」ということである。アメリカにおける医療過誤によ
る年間死亡者数が自動車事故や乳がん、エイズによる死亡者数を上回るというデータを紹
介するとともに、同書は「医療は期待されているほど安全なものではない」というスタ
ンスにたっている。このような主張あるいはスタンスは、決してアメリカ国内だけのもの
ではなく、また、扇情的なものでもない。医療におけるリスクの問題がいかに重要である
かは、日本国内においても、書店の医療コーナーの棚を一瞥すればすぐに理解できるだ
ろう。

10

15

このケースで扱う医療法人豊田会・刈谷豊田総合病院（以下、「刈谷豊田総合病院」と
略記する）は、医療事故を起こさないためのリスクマネジメントにより、第三者からも高
い評価を得ている病院である。同院は「事故を起こしたくても起こせない仕組み」を構築
することにより、現場の医師や看護師といったヒトではなく、仕組みによって事故原因を
解消しようと考えている。事故を起こしたくても起こせない仕組みとは、具体的にはい
かなる仕組みか。その仕組みづくりの要諦は何か。医療現場が多くの問題を抱える中
で、どうすれば医療事故を避けることができるのか。——今回のケースで明らかにしたい
と考えているのは、これらの問題である。

20

* 本稿の作成にあたりお忙しい中を長時間にわたる度重なる取材に応じていただいた、医療法人刈谷豊田総合病院事務部長片岡嘉友氏、事務部管理部長大岡伸裕氏、事務部人事企画室室長（当時）祖父江康志氏、安全環境室副室長結城房子氏、取材の実現にあたって格別のご配慮をいただいた中部経済同友会（当時）近藤喜嗣氏、有益なコメントを下された神戸大学大学院経営学研究科石井淳蔵先生、慶應義塾大学大学院経営管理研究科余田拓郎先生、岡山大学大学院医歯学総合研究科猶本良夫先生、流通科学大学商学部高室裕史先生をはじめとする医療経営研究会の皆さんに記して感謝致します。もちろん、本稿の記述に関する一切の責は筆者に帰するものです。

25

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

30